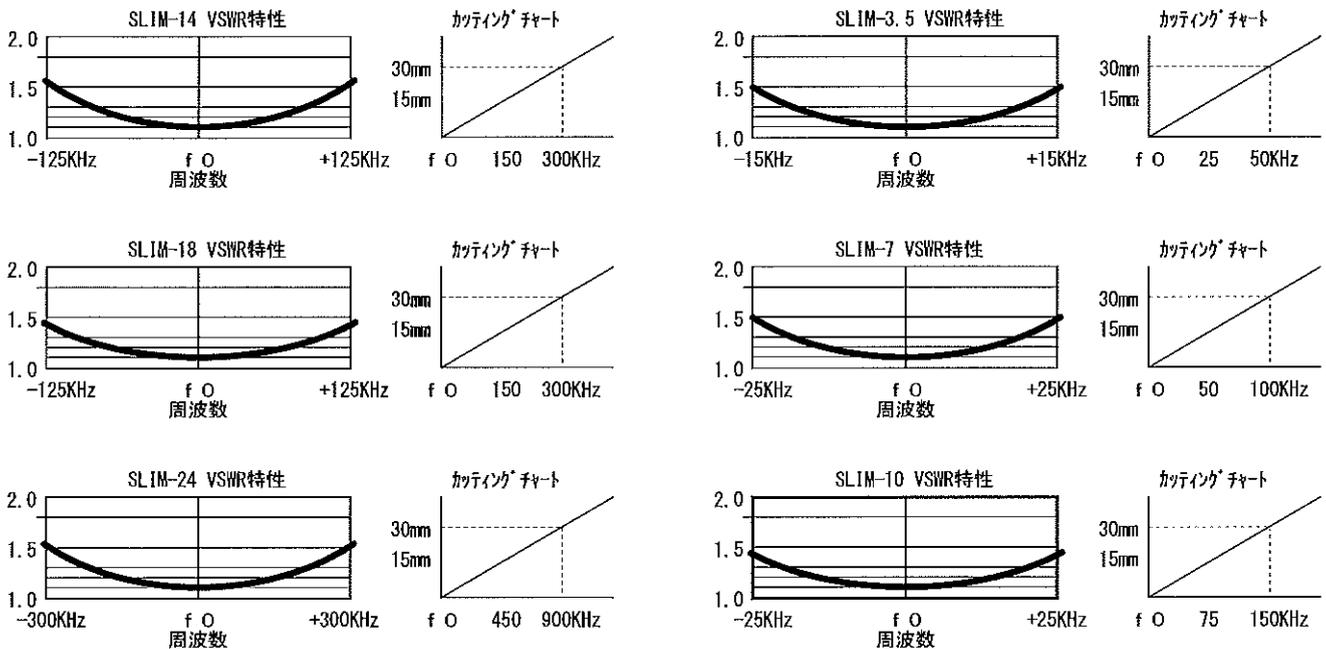


CM-144Wオプションコイル取扱説明書

SLIM-3.5	3.5MHz	SLIM-7	7MHz	SLIM-10	10MHz
SLIM-14	14MHz	SLIM-18	18MHz	SLIM-24	24MHz

CM-144Wは、4バンド(21, 28, 50, 144MHz)共用ホイップアンテナとして長く愛用されています。

このバンドの他にもオプションとして、上記の通り SLIM シリーズを用意しております。コイル表面は、特殊な工法により防水処理されており、全天候下で安心してご使用になれます。オプションコイルには、各々周波数帯が表示されております。調整は先端の細エレメントの長さで行います。予備の細エレメントも用意しております。CM-144W(CM-144W7)は、メインエレメントとトップコイルから成り立っています。メインエレメントは単独で144MHzの5/8λと50MHzとの兼用になっています。



オプションコイルをつけたアンテナを、従来のアンテナ基台に取り付け、SWRを計って下さい。測定器としてSWRメーターは必要ですが、アンテナアナライザがあると便利です。工場出荷時では、小型乗用車のルーフサイドにつけて、バンドの下のエッジに合わせておりますが、別の車両に取り付けた場合、取付けの位置、車体の大きさでSWRが一番さがる周波数(以後ディップ点またはfoという)が異なります。

- 1) まず、取付ける車両でのディップ点(fo)を掴んで下さい。
- 2) ディップ点が、希望の周波数より低い場合は、コイルのセットビスを緩めて、エレメントをコイルの中に挿入し、エレメントの長さを短くしてください。奥に当ってそれ以上挿入できない場合は、エレメントをコイルから抜き、必要な長さだけ切断して挿入して下さい。また逆に、ディップ点が、希望の周波数より高い場合は、エレメントを抜き出して下さい。エレメントの長さが足りない場合は、先端に裸銅線を巻き付けて、必要長の目安を得てください。後で予備エレメントと置き換える為です。
- 3) カuttingチャートは各バンドに於けるfoの移動をグラフにしています。例えば、SLIM-14では、30mm縮めると約300KHz高い周波数にfoが移ります。
- 4) オプションコイルをつけると、50と144MHzのfoが大幅に低い方に移動します。給電部の中のカートリッジコイルの巻線の間隔や巻数の調整で補正できます。しかし、他のHFバンドに付替えると、そのfoが変化します。

メインエレメントは、銅線入りFRPロッドです。よくしなるため、不安感を与えますが、よほど強い衝撃を与えない限り、折れる事はありません。

CM-144Wの添付の直角アダプタを、別売のフレミングアダプタ、デルタマウントなどに替えて、マルチバンドアンテナにすることができます。しかし、SLIM-3.5は、他のコイルと組合せると、トップヘビーとなり、また、調整も難しくなります。また、ローバンド中心の組合せにも同じ事がいえます。基台を含め、アンテナの耐久性にも影響がでできます。

定期的なメンテナンスを施し、事故防止に心掛けてください。また、道路交通法に準じた取付けをおこなってください。

参考に、下に各コイルの組み合わせ例をあげてみました。下のない組み合わせについては各自ご研究下さい。

